

# 国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

留学生選考

研究科	専攻	試験科目	参考書等持込
経済学研究科	経済学専攻	小論文	不可

下記の文章を読んで、問いに答えなさい。

人手不足の解消や生産性向上、高品質な製造を目的に AI ロボットの開発や導入に力を入れている国が近年増えている。AI ロボットの開発・導入が進んでいる国としてアメリカや中国、韓国、ドイツなどが挙げられている。アメリカは AI 計算能力（コンピューティングパワー）で世界 1 位、中国は産業用ロボットの年間導入台数で世界 1 位を占め、韓国は従業員 1 万人あたりのロボット設置数（ロボット密度）が世界 1 位で、製造業、特に自動車や電子機器産業での AI ロボットの活用が進んでいる。ドイツもヨーロッパで最も自動化が進んでいる国として、製造業におけるロボットの活用で世界をリードしている。

IFR（国際ロボット連盟）がまとめた報告書「ワールドロボティクス 2025」では、2024 年の世界の産業用ロボットの導入台数は 54 万 2000 台と 4 年連続で 50 万台を超え、10 年で 2 倍の規模に拡大し、今後も拡大が続くとの見通しが示された。地域別でみると、全導入台数のうち、アジアが 74%、欧州が 16%、南北アメリカが 9% を占め、アジア地域の存在感が際立つ。うち、中国の年間導入台数は 29 万 5000 台に達し、世界の導入台数の 54% を占め、中国メーカーの国内販売台数も、初めて外国メーカーを上回り、国内市場シェアを過去 10 年間の 28% から一気に 57% に上昇させ、稼働ロボットの台数も 200 万台を超えて世界最大となった。世界 2 位の日本の導入台数は 4 万 4500 台（前年比 4% 減）、3 位のアメリカは 3 万 4200 台（前年比 9% 減）、4 位の韓国は 3 万 600 台（前年比 3% 減）、5 位のドイツは 2 万 6982 台（前年比 5% 減）となった。

AI ロボットの導入は、産業・医療・介護・教育など多岐にわたる分野で期待されている一方で、特定の職種・労働層に対する雇用喪失のリスク、倫理や責任の所在の不透明といった課題も指摘されている。AI ロボットの事例を挙げながら、今後 AI ロボットに期待できる部分と課題の部分（解決策も含む）について、私見を述べなさい。

参考文献

IFR（国際ロボット連盟）『ワールドロボティクス 2025』報告書「産業用ロボット」  
[/https://ifr.org/ifr-press-releases/news/global-robot-demand-in-factories-doubles-over-10-years](https://ifr.org/ifr-press-releases/news/global-robot-demand-in-factories-doubles-over-10-years).

# 令和8年度 国士舘大学大学院入学試験

## 出題の意図と採点のポイント

研究科名	経済学研究科 経済学専攻
試験期別	Ⅲ期
試験区分	留学生選考
試験科目名	小論文

### ■出題の意図

AI ロボットは、従来の自動化（専用ロボット）と異なり、周囲の環境を認識・自律学習し、状況変化に柔軟に対応して、介護、物流、製造など幅広い現場で労働力不足や安全性向上に貢献し、業務効率の劇的向上を実現すると期待されている。その意味において、AI ロボットの活用は今後の経済発展、産業構造の再編において不可欠になる。この点について、どの程度理解し、またどの程度最新情報をキャッチして、自身の視点で分析できるかを図る。

### ■採点のポイント

- ・ 論題に記載されている内容について、どの程度理解して自身の持っている知識または情報を用いて、論点を整理できるか。
- ・ 設問に対し、私見を明瞭に述べられているか。
- ・ 記述しようとする内容を論理的にまとめられるか。
- ・ 日本語の表現が適切であるか。